

直言

離島・へき地医療や断らない救急 国内外の医療過疎地への医療提供

社会貢献こそ徳洲会が存続できている理由



藤田安彦
徳之島徳洲会病院院長

近頃の新聞やテレビは肉親間の争いや殺傷事件、世界の至る所で起きている悲惨な紛争を毎日のように報じています。最近ではシリア難民が400万人にふくれ上がり、トルコの海岸に打ち上げられた3歳児の遺体の画像が世界中に衝撃をもたらした。

世界中に衝撃を与えた写真が 難民拒絶の各国首脳を変えた

今夏、指宿（鹿児島県）を旅行した際に知覧特攻平和会館を訪れました。同会館は、第二次世界大戦末期の沖縄戦に特攻という人類史上、類のない作戦で爆装した飛行機もろとも敵艦に体当たり攻撃をした陸軍特別攻撃隊員の遺品や関係資料を展示しています。特攻出撃前、10歳代の若者たちが、親・兄弟・子ども、恋人などに宛てて「遺書」を書き残していました。

当院継続はグループからの支援 地域の方々や職員の努力の賜物

日本復帰後の徳之島に生まれ、戦争を体験していない私は、その手記の存在について詳しく知りませんでした。今回、手記を見て感じたことは、家族や母親、日本への愛情が込められており、平和な祖国の繁栄を望んでいるということでした。館内を見学しているうちに、零れ落ちる涙を抑えることができなくなりました。周囲の人たちを見渡しても、同様に涙していました。必ず死に行く極限状態のなかで書かれたものでありながら、どうしてこうまでも純粋な気持ちでいられるのでしょうか。自分よりも家族や恋人、祖国を愛する気持ちが強くと、感謝の気持ちと将来の日本の繁栄を願う文章であり、非常に心を打たれました。

また。各国で激しい怒りをともなう世論が巻き起こり、難民を拒絶していた先進国首脳も世論に押され判断を覆したのです。亡くなったのは、内戦で混乱するシリアから家族と逃れてきたアylanという名前の男の子でした。シリアの首都ダマスカスで、親子4人は裕福に暮らしていたそうです。内戦のため、両親と一緒に避難したものの、ボートが転覆。お父さんは必死に助けようとしたが、かないませんでした。アylanちゃ

が不足している病院に対し、グループを挙げ積極的に支援します。また8時や朝礼、医局会などを開き、自院の情報を共有する試みは大学病院、市中病院では見られない光景です。私は島根医科大学附属病院（現・島根大学医学部附属病院）、横須賀共済病院、東京西徳洲会病院などに勤務。以降、徳洲会の理念である「生命を安心して預けられる病院」などを毎朝唱和。朝礼では経済から文学まで幅広く本を紹介し、社会貢献と徳洲会としての責任・義務を常に果たす気持ちが必要だと力説し続けています。

9月度の徳洲会医療経営戦略セミナーで京都府立医科大学救急医療学教室の太田凡教授が講演。太田教授は湘南鎌倉総合病院に勤務時、断らない救急医療と各診療科が互いに協力し、すべての救急疾患を診るシステムを構築されました。大学病院ではなかなかできないことで、徳洲会の医療文化は大変素晴らしいと話されました。

来々、当院は開院30周年を迎えます。これまで病院の運営が継続できたのは、徳洲会グループやグループ外からの医師、看護師、コメディカル、事務職員などの応援と、地元への支援、職員の絶え間ない努力の賜物。看護師や医師の頑張りはもちろんのこと、毎日、患者さんのおむつ交換や食事、入浴介助などを業務としている職員の姿勢にも敬服しています。当院を支援してくださるすべての方に、改めて深く感謝する次第です。いつもありがとうございます。

徳之島の将来については、当院の新築移転はもとより、看護学校設立、高齢者施設や外国人向けの健診センター、リゾートホテルなどが一体となった複合施設をつくることがかねてからの私の夢です。雇用を増やすことで、若い人たちが島から出ずに生活できる環境をつくりたいと思います。夢ですが、夢をもつことは自由ですから、皆に訴えていきたいのです。

徳洲会が存続できているのは、離島・へき地医療や断らない救急、国内外の医療過疎地域への医療提供など社会貢献を行っているからだと思われ、皆さんも思っています。

徳之島の将来については、当院の新築移転はもとより、看護学校設立、高齢者施設や外国人向けの健診センター、リゾートホテルなどが一体となった複合施設をつくることがかねてからの私の夢です。雇用を増やすことで、若い人たちが島から出ずに生活できる環境をつくりたいと思います。夢ですが、夢をもつことは自由ですから、皆に訴えていきたいのです。

徳之島の将来については、当院の新築移転はもとより、看護学校設立、高齢者施設や外国人向けの健診センター、リゾートホテルなどが一体となった複合施設をつくることがかねてからの私の夢です。雇用を増やすことで、若い人たちが島から出ずに生活できる環境をつくりたいと思います。夢ですが、夢をもつことは自由ですから、皆に訴えていきたいのです。

徳之島の将来については、当院の新築移転はもとより、看護学校設立、高齢者施設や外国人向けの健診センター、リゾートホテルなどが一体となった複合施設をつくることがかねてからの私の夢です。雇用を増やすことで、若い人たちが島から出ずに生活できる環境をつくりたいと思います。夢ですが、夢をもつことは自由ですから、皆に訴えていきたいのです。

豪州の総合診療医 ひとりでも多く救う 徳之島で講演会を開催

「ひとりでも多くの人を救うには～総合診療と地域医療のあり方～」こんなタイトルの講演会が徳之島で開催された。島内の医療関係者や住民など約450人も参加者が会場に駆け付け、600人収容の徳之島町文化会館の席の多くが埋まった。

講師は3人のオーストラリア（豪州）人、イーウェン・マクフィー医師、デビッド・モーガン医師、アリソン・カービー医師だ。マクフィー医師、モーガン医師は豪州総合診療学会公認の指導医資格を持つ。3人も同国クイーンズランド州で働いている。豪州は国土が広大であることから、へき地での医師の教育プログラムが充実しており、総合診療が盛ん。



徳之島3町の職員が空港で出迎えるなど島を挙げての歓迎ムード。前列右から、齋藤医師、カービー医師、マクフィー医師、モーガン医師

講演会の主催は、徳之島徳洲会病院に勤務歴のある齋藤学医師が代表を務める「未来へつなぐ～離島へき地医療ネットワーク実行委員会」。共催は「徳之島の将来の医療・福祉を考える会」。同会は徳之島3町（伊仙町、徳之島町、天城町）や徳之島徳洲会病院を含む島内の医療機関などで構成する組織だ。

講演会では冒頭、高岡秀規・徳之島町長、島内にある宮上病院の宮上寛之院長、齋藤医師が挨拶。続いて登壇したマクフィー医師は産科医療から緩和ケアまで幅広い診療に携わっており、専門家への橋渡しも担っている経験から、「総合診療に垣根はありません」と訴えた。モーガン医師は航空機を利用した救急搬送などを行う団体にも所属し、フライングドクターとしても活躍。「安定した状態で搬送しなければ患者さんに害が及んでしまいます」と搬送時の注意点を強調した。カービー医師は「限られた医療資源を有効活用するため、どのスタッフがどんな技術をもっているかを把握しておくことが重要」とアドバイス。最後に大久保明・伊仙町長が閉会の挨拶を行った。



医療関係者や住民など多くの島民が集まった豪州人医師による講演会



式典は地元の公共施設で午前の部と午後の部に分けて行った。午前の部は職員や職員の家族、午後の部は第1部で招待者や古河病院の応援団的存在

式典は地元の公共施設で午前の部と午後の部に分けて行った。午前の部は職員や職員の家族、午後の部は第1部で招待者や古河病院の応援団的存在

在である古河健康友の会会員、第2部で一般の方をそれぞれ対象に催した。徳洲会グループの羽生総合病院（埼玉県）の松本裕史院長も駆け付け、祝辞を贈るひと幕もあった。式典の目玉企画として同院は落語家の林家木久扇師匠、木久蔵師匠をゲストに招いた。午前、午後の部ともに落語を披露した。このうち木久蔵師匠は昨年、喉頭がんを患ったエピソードなどをユーモアを交えて話した。その

後、2人と福江真隆・古河病院院長が対談するコーナーも設けた。木久蔵師匠は「なぞかけ大喜利」の表彰作品の発表にも参加。同院は事前に「古河」「健康」「お笑い」「木久蔵ラーメン」のいずれかをテーマとするなぞかけを公募し、300を超え応募作品のなかから10作品が受賞した。木久蔵師匠らが各作品を読み上げると、会場に大きな笑い拍手が響いた。優秀賞は「健康とかけて野球のピッチャーと解く。その心はコントロールドを遣います」。式典の前日には、前夜祭として毎年開催されている病院祭を病院敷地内で実施。医療講演や健康相談、模擬店などに加え、地域の方々の協力で和太鼓やフラダンスなどのショーも行った。2日間にわたるイベントを終え、福江院長は「開院して10年。記念の式典も楽しく行うことができ、改めてこの10年間、院長を続けてきた感慨に浸っています」と感無量の表情。「苦しいこともありましたが、当院のスタイルも確立し、感謝の気持ちでいっぱいです」と、地域の方々をはじめ関係者に謝意を示した。

古河病院 開院10周年を祝う 前夜祭と式典1000人超

古河病院（茨城県）は開院10周年の記念式典を挙行了した。当日はゲストに落語家の林家木久蔵師匠、木久蔵師匠を迎え、落語をはじめさまざまな企画を実施。前夜祭として恒例の病院祭も開催し、2日間で参加者は1000人を超える盛況ぶりだった。



雨天にもかかわらず前夜祭にも多くの方が参加